NIPPON

外交関係樹立25周年

日本とボスニア・ヘルツェゴビナの友好関係

目　次

大使御挨拶 …… 2

外交関係樹立25周年　茂木大臣のボスニア・ヘルツェゴビナ訪問 …… 3

外交関係樹立25周年　外交年表 …… 4

政府開発援助（ODA） …… 5

外交トピックス …… 7

地方都市訪問 …… 9

日本とオリンピック・パラリンピック …… 11

日本とボスニア・ヘルツェゴビナをつなぐ人々 …… 12

二国間交流 …… 13

大使御挨拶

2021年、日本とボスニア・ヘルツェゴビナは、外交関係樹立25周年を迎えました。両国は、これまで多岐に亘って緊密な協力と活発な交流を行い、信頼関係を築きあげてきました。そして今後、更に両国の関係が発展して行くことを私は確信しています。日本とボスニア・ヘルツェゴビナ両国民の間には、歴史と伝統を大切にし、自らの文化、言語、芸術、音楽への高い誇りを持つ等、多くの共通点があると感じているからです。

この“NIPPON”は、両国の友好関係を政治、経済、文化等、さまざまなテーマで取り上げています。こちらをご覧いただければ、両国のパートナーシップの歴史を知ることができると同時に、二国間関係の拡大の可能性を感じていただけると思います。両国の相互理解を促進し、様々なレベルでの強固な結びつき、また、より積極的な交流の一助となれば大変うれしく思います。

2022年5月

駐ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国特命全権大使

伊藤 眞

茂木外務大臣のボスニア・ヘルツェゴビナ訪問

2021年5月、茂木外務大臣は、ボスニア・ヘルツェゴビナ（BH）を公式訪問し、トゥルコビッチBH閣僚評議会副議長（副首相に相当）兼外務大臣との間で外相会談を行いました。

会談終了後、両外務大臣は、供与額5億円の国境管理・治安対策機材供与の無償資金協力（「経済社会開発計画」）に署名するとともに、共同記者発表を行いました。

さらに、茂木大臣は、大統領評議会のドディック・セルビア系メンバー兼議長、コムシッチ・クロアチア系メンバー、ジャフェロビッチ・ボシュニャク系メンバーの3名の共同国家元首を表敬しました。

各会談において、茂木大臣は、BHが西バルカン及び欧州全体の平和と安定の鍵を握る国であるとし、EU加盟を通じた欧州統合が西バルカン地域の安定及び発展に極めて重要である旨述べました。さらに、「西バルカン協力イニシアティブ」を通じて、あらゆる分野で二国間関係の発展が加速しており、今後、BHの経済社会改革を支援する旨述べました。

BHの各要人からは、EU加盟に向けたBHの改革の現状について説明がなされると共に、BHに対する日本の継続的な人道・復興支援、新型コロナウイルス感染症対策としての医療分野の支援等に深い感謝の意が表されました。また、会談ではインド太平洋、東アジア情勢等も含む地域情勢についても意見交換が行われました。

茂木大臣のBH訪問は、日本の外務大臣による23年振りの公式訪問であり、また、2021年は両国の外交関係樹立25周年の節目の年であることから、両国の関係を一層促進させる素晴らしい機会となりました。

外交関係樹立25周年記念書簡の交換

2021年2月9日、我が国とBHは外交関係樹立から25周年を迎えました。

同日、伊藤大使とテゲルティヤ閣僚評議会議長及びトゥルコビッチ閣僚評議会副議長兼外務大臣との間で、外交関係樹立25周年を記念する菅内閣総理大臣とテゲルティヤ閣僚評議会議長、茂木外務大臣とトゥルコビッチ閣僚評議会副議長兼外務大臣の書簡の交換が行われました。

外交年表

1995年12月のBH和平一般枠組み合意（デイトン合意）署名後の1996年1月23日、日本はBHを国家承認し、同年2月9日に両国は外交関係を樹立しました。1998年2月、日本は首都サラエボに兼勤駐在官事務所を開設、2008年1月に大使館に格上げしました。一方、BHは、1999年1月に東京に大使館を開設しました。

	往　　訪	来　　訪
1996年　2月	外交関係樹立	
7月	池田行彦外務大臣	
1998年　2月	在ボスニア・ヘルツェゴビナ兼勤駐在官事務所開設	
1998年　4月	小渕恵三外務大臣	
6月		シライジッチ閣僚評議会共同議長 ドディック・スルプスカ共和国首相
1999年　1月	駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館開設	
1999年　9月		ドディック・スルプスカ共和国首相 ロンチャル副首相
2000年　5月		シバリ外務副大臣 イバニッチ民主進歩党党首
2003年　8月	衆議院外務委員会一行	
2004年　1月	松宮勲外務大臣政務官	
4月		イバニッチ外務大臣 ドコ通商経済関係大臣
7月	有馬龍夫政府代表	
2005年　3月		テルジッチ閣僚評議会議長 マリッチ財務大臣
2006年 11月	松島みどり外務大臣政務官	
2008年　1月	在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館開設	
2009年 10月		アルカライ外務大臣
2012年　4月	浜田昌良外務大臣政務官	
2013年　9月		ベチロビッチ代議院（下院）議長
2014年　7月	牧野たかお外務大臣政務官	
8月	伊吹文明衆議院議長	ケボBH連邦副大統領
2015年　7月	薗浦健太郎外務大臣政務官	
2016年 10月	岸信夫外務副大臣	
2017年 10月		ツルナダク外務大臣
2018年　5月		ブルキッチ外務副大臣
2019年 10月		コムシッチ大統領評議会議長 （即位礼正殿の儀参列）
2021年　3月		ツィコティッチ治安大臣
2021年　5月	茂木敏充外務大臣	

政府開発援助(ODA)

1995年より和平履行評議会運営委員会(PIC・SB)の一員として、日本政府はBHの平和構築に積極的に関与し、政府開発援助(ODA)を通じて同国の開発・発展の努力を継続して支援しています。日本はBHの開発における最大かつ重要なパートナー国の1つとして、これまでの支援額は約600億円(約10億KM)に上ります。

1 二国間協力

(1)一般無償資金協力
合計:約295億円(約4億KM)

(2)草の根・人間の安全保障無償資金協力
合計:約23億円(約35,1百万KM)
1996年よりBHにおいて学校改修、医療機材及び地雷除去活動等の分野で240件以上が実施されています。

(3)有償資金協力
合計:約167億円(約2億43百万KM)

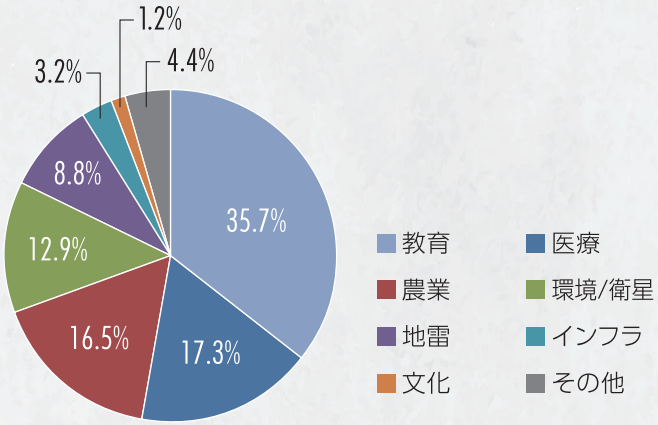
(4)技術協力プロジェクト:JICA(国際協力機構)
合計:約72億円(約98百万KM)
100名以上の専門家派遣
830名以上の研修員受け入れ
6件の開発調査
16件の技術協力プロジェクト

(5)一般文化無償
合計:約2億円(約250万KM)

(6)草の根文化無償
合計:約74百万円(約100万KM)

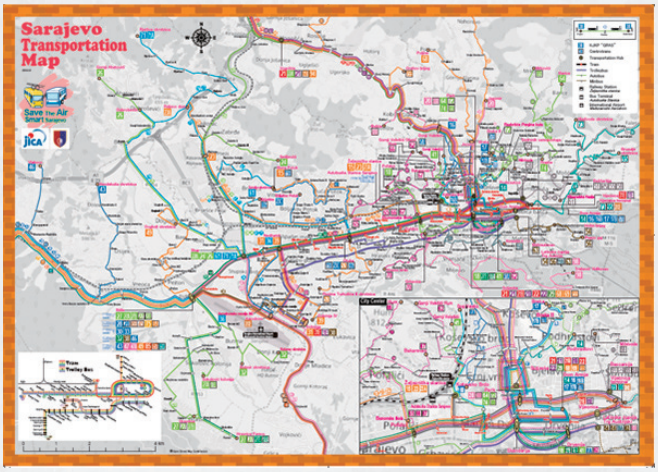
2 国際機関を通じた協力

合計:国際機関を通じた協力に約98億円
(1億38百万KM以上)を拠出
- OHR拠出金:約67百万KM
(運営経費の10%を継続して負担)
- UNDP信託基金:約56百万KM
- 国連・人間の安全保障基金:約890万KM
- 洪水被害に対する支援(UNDP,IOM):約630万KM



草の根・人間の安全保障無償資金協力:分野別

スポーツ教育を通じた信頼醸成の一環として当地に取り入れられた運動会。スポーツエリートの教育以外の運動の概念を定着させています。



路線図や時刻表がなかったサラエボ市の公共交通に、路線図が完成。公共交通の拡充と利用率の増加を通じて大気汚染の緩和が期待されます。(路線図)

医療支援

低燃費かつ高性能な日本製車両が持続的な医療サービス提供に貢献。救急車のほか、除細動器や心電図装置等、診療所への医療器材の整備も実施しています。

障がい者支援

精神障がい者施設に日本の農耕トラクターを供与。日本メーカーの農耕機が入居者の日々の活動に貢献しています。

印字と点字印刷が同時にできる日本の点字プリンターを供与。日本の技術が、障がい者の教育、特に家庭内学習に貢献しています。

教育支援

外国大使と会える機会が限られる地方都市の小学校では、生徒たちが大使の来訪を心待ちにしています。手作りの日の丸を大きく振って歓迎してくれました。

コロナ対策のため大使に会えない生徒たちから、心のこもったメッセージ。数十年後も日本の支援が思い出されるよう日本の象徴ともいえる桜の木を植樹。

外交トピックス

BHに対する感染症対策及び保健・医療体制整備のための支援（無償資金協力）

新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面し、日本政府は保健・医療関連機材の供与を通じて、BHの感染症対策及び保健・医療体制の強化に寄与すべく、保健・医療関連機材のための無償資金協力（「経済社会開発計画」）を決定しました。2021年2月に伊藤大使とトゥルコビッチ閣僚評議会副議長兼外務大臣との間で、供与額1億円の「経済社会開発計画」に関する書簡の交換が行われました。

BHにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響による経済状況の悪化に加え、検査の実施や感染者への対応が既存の医療体制に対する負荷となり、医療サービスの地域格差が拡大している状況にありました。本計画では、BHに対し、移動式X線撮影装置、可搬型超音波画像診断装置等の保健・医療関連機材を供与することによって、喫緊の課題であった保健・医療体制の強化を実現させるものです。

令和3年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ビハチ市、ドニ・バクフ市、ドボイ市及びフォチャ市における地雷除去支援計画」

日本政府は、令和3年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の一環として、「ビハチ市、ドニ・バクフ市、ドボイ市及びフォチャ市における地雷除去支援計画」に389,150ユーロ（約4,7百万円）を供与することを決定し、2021年5月、伊藤大使は、ロブレンチッチ人間の安全保障強化のための国際信託基金（ITF）代表と贈与契約に署名しました。

本計画は、4市の合計約20万平方メートルで地雷除去活動を行うために供与するもので、本件支援により、対象地域の住民約370人が直接裨益するとともに、地雷の脅威が取り除かれ、生活圏の安全性が向上することで同4市に居住する住民約16万人が安全な生活を送ることができるようになります。

2022年1月、ロブレンチッチ代表は当館を訪問し、同計画の現状報告を行いました。

大使の並木道 植樹

サラエボ市旧市街区内「大使の並木道」には、毎年各国の新任大使によって菩提樹の植樹が行われています。

2021年9月、伊藤大使は、同並木道で209本目となる菩提樹を植樹しました。

ビジネス関係発展に向けて

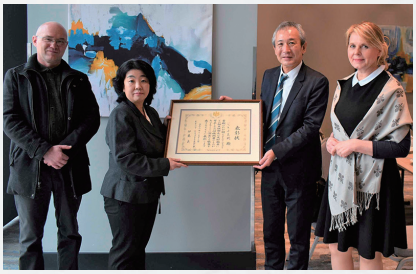
銀行、スーパーマーケットなど、BH民間企業の訪問、日系企業との懇談、BH投資促進庁長官、BH連邦環境・観光大臣、BH対外貿易商工会議所会頭との会談など、日本とBHのビジネス関係の発展に向け、さまざまな機会を設けています。

講師派遣事業

サラエボ大学やバニャ・ルカ大学と共催で、日本から講師を招へいし、教室+オンラインのハイブリッドでセミナーを開催。日本の優れた技術、知見をBHに紹介し、今後の経済社会開発に活かしてもらうことが目的です。

在外公館長表彰

日本とBHとの相互理解及び友好親善の促進に寄与した個人・団体に対して大使が授与する顕彰です。これまでに帰国留学生会やサラエボ大学哲学部など、4つの団体、2名の個人に対し在外公館長表彰が贈られました。



地方都市訪問

❶ 2021年4月　サラエボ市
カリッチ市長と会談

❷ 2021年6月　コニッツ市
チャティッチ市長と会談

❸ 2021年6月　ボゴシチャ市
スマイッチ市長と会談

❹ 2021年6月　テスリッチ市
オリンピック・デー・イベント出席

❺ 2021年8月　モスタル市
コルディッチ市長と会談

❻ 2021年9月　チェリッチ市
フルスタノビッチ市長と
引渡式出席

❼ 2021年9月　ジビニツェ市
チェルケゾビッチ副市長と
引渡式出席

❽ 2021年9月　ソコラツ市
ビェリツァ市長と引渡式出席

❾ 2021年10月　ゼニツァ市
ドボイ県コズリッチ教育・科学・文化・スポーツ
大臣兼首相代行、ハジッチ農林水産大臣と会談

❿ 2021年10月　クラダニ市
チャブクノビッチ市長と
引渡式出席

⓫ 2021年10月　トゥズラ県
ホジッチ首相、バラコビッチ教育・科学大臣、
ホジッチ経済大臣及びラキッチ財務大臣と会談

⓬ 2021年11月　リブノ市
第10県ブカディン首相、バイッチ労働・医療・社会福祉大
臣、ダリッチ財務大臣、ペリッチ農業水産大臣と会談

⓭ 2021年11月　グルーデ市
ビオレッタ社工場視察

⓮ 2021年11月　ネレトバ県
同県政府ヘルツェグ首相と会談

⓯ 2021年11月　バニャ・ルカ市
スタニブコビッチ市長と
イベント参加

⓰ 2021年11月　トラブニク市
ダウトビッチ市長と会談

⓱ 2021年12月　ビソコ市
ガニッチ市長と会談

⓲ 2022年2月　フォイニツァ市
チャバラ・BH連邦大統領、クリスーラ市長と引渡式出席

⓳ 2022年2月　パレ市（BH連邦）
チュトゥク市長と引渡式出席

㉒ 2022年2月　フォチャ市
ブカディノビッチ市長と
引渡式出席

㉓ 2022年3月　ウナサナ県
同県政府ルジュニッチ首相と
会談

㉔ 2022年3月　ペトロバツ市
コバチェビッチ市長と引渡式出席

㉕ 2022年3月　ネベシニェ市
アブダロビッチ市長と会談

⑳2022年2月　ポドリニェ県
同県政府オブチャ首相と会談

㉑2022年2月　ゴラジュデ市
エルネスト市長と引渡式出席

㉖2022年5月　クネジェボ市
ボロイェビッチ市長と引渡式出席

㉗2022年5月　デルベンタ市
シミッチ市長と会談

㉘2022年5月　モドリチャ市
ドゥロビッチ市長と引渡式出席

日本とオリンピック・パラリンピック

1964年の東京夏季大会、1972年の札幌冬季大会は、ともに初めてアジアで開催された夏季・冬季大会となりました。その後、1998年には日本が3回目の大会ホストを務めた長野冬季大会が開催され、同大会で現在のBH国旗が初めて世界に披露されました。

日本が4回目の大会ホストを務め、2回目の東京開催となった東京2020オリンピック・パラリンピック大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の予定より1年遅れて開幕となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のための様々な制約のもと、オリンピック大会は2021年7月23日から8月8日、パラリンピック大会は同8月24日から9月5日の日程で開催され、安全・安心を第一に掲げたことで成功裏に幕を閉じることができました。

BHオリンピック選手団壮行会

BHパラリンピック選手団壮行会

スペシャルインタビュー

パラリンピック
卓球男子代表
ハリス・エミノビッチ

こんにちは!私の名前はハリス・エミノビッチです。私は、東京パラリンピック2020大会にパラ卓球の選手として参加しました。東京大会への道のりは非常に困難なものでしたが、競技に打ち込み、努力を重ね、意志を貫くことで、自分の夢を叶えることができました。

日本に到着すると、私は日本人が非常に礼儀正しく親切であることに気付き、それが私たちの滞在をより素晴らしいものにしました。その信じられないほどのおもてなしは、私達が日本を出国するまで続きました。私達が滞在した選手村は、とても便利で素晴らしいものでした。また、一日中お手伝いしてくださるボランティアの方々がたくさんいたことも、快適に滞在できた理由です。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの流行はありましたが、パラ卓球の競技会場が都心部に所在しているという幸運もあり、東京の街並みの一部をバスから見ることができました。私はボスニア・ヘルツェゴビナという小さな国から来たので、高層ビル、東京タワー、大きな橋などの日本の大型建造物に感銘を受けました。

試合が行われた会場に対しても素晴らしい印象を持ちました。会場の床と卓球台は最高の状態で、そこで試合ができたことを光栄に思います。また、日本の料理を味わえたことも嬉しかったです。日本という国、そこで得た経験、そして日本の印象はいつまでも私の心に残ります。今回が最初で最後の訪日とならないことを願っています。ありがとう!さようなら!

日本とボスニア・ヘルツェゴビナをつなぐ人々

ヤドランカ・ストヤコビッチ

16歳のとき、ドイツで活躍していた叔父のジャズグループにベース&ボーカル担当として参加。その後ヨーロッパにおいて活動の場を広げていたヤドランカ氏は、1984年、生まれ故郷のサラエボで開催された冬季オリンピックのメインテーマ曲の制作と歌唱で一躍国民的歌手となり、ユーゴスラビアのベストアーティストにも選ばれました。日本文化、特に浮世絵、俳句に関心を抱いていたこともあり、レコーディングのため来日。その間にBHの内戦が勃発、激化したことから、それ以降、2011年まで日本を活動の拠点とし、日本のテレビ番組や映画の主題歌を手掛けるなど、幅広く活躍しました。2016年、バニャ・ルカで亡くなった彼女の楽曲と歌声は、いまでも日本・BH両国の多くの国民の心に響き、愛され続けています。

イビチャ・オシム

1964年、オシム氏は、東京オリンピック・サッカー・ユーゴスラビア代表選手として初来日、日本戦で2ゴールをあげるなど、若きFWとして大活躍をしました。選手引退後は、1986年から1992年までユーゴスラビア代表チーム監督、2003年より日本のクラブチーム監督を経て、2006年、日本代表チームの監督に就任。名将と呼ばれるに相応しい、輝かしい実績を残しました。また、彼のサッカー哲学から紡ぎ出された言葉は、「オシム語録」として人気を博し、サッカー選手のみならず多くの日本人の心を捉えました。日本サッカー界の発展及び日本とBH間の相互理解の促進に寄与した功績が認められ、2016年11月、旭日小綬章が贈られました。2022年5月逝去。その訃報に接した日本・BH両国の国民は、オシム氏が残した偉大な功績に改めての感謝と敬意を表しました。

ランコ・シュクルビッチ

1989年、信州大学へ留学し、帰国後は、バニャ・ルカ大学医学部にて医学部長として活躍。日本とBHの架け橋として、多くの留学生並びに帰国留学生を支援するなど、長年にわたり、両国の相互理解の促進に寄与しました。そのシュクルビッチ氏の功績に対し、2021年、BHで初めて日本の外務大臣表彰が贈られました。

ブラニスラブ・ツルノゴラツ

BH柔道連盟会長。柔道競技を日本の伝統文化として広くBH国民に伝え、指導者及び柔道選手の育成に努めるとともに、スポーツを通じて日本とBHの友好親善関係の促進に寄与しました。こうしたツルノゴラツ氏の長年の功績を讃え、2021年旭日双光章が贈られました。

宮本 恒靖

サッカー日本代表主将として活躍した宮本氏は、2016年、民族感情のわだかまりが残るBHで、子どもたちが民族の垣根を超えて活動するスポーツアカデミー「マリモスト」をモスタル市に設立しました。グラウンドでは、子どもたちが一緒にボールを追いかけ、民族の垣根を超えた友情を育んでいます。

二国間交流

日本大使館では、文化やスポーツ、教育など様々な分野において、日本とBHの人的・文化的相互交流を促進しています。

日本語教育

サラエボ大学哲学部では、日本人講師による日本語公開講座及び正規の日本語コースが開講されており、これまで延べ800名以上が日本語を学習しています。今後、同学部がBH国内における日本語教育の拠点となることを期待し、2021年には「令和元年度草の根文化無償資金協力」で日本語・日本文化教室が整備されました。

また、各地においても民間団体や個人が提供する日本語教育の機会は増えており、BHにおける日本語・日本文化に対する関心はますます高まっています。

日本大使館は、「新春祭り」（当館主催、サラエボ大学哲学部共催）、「日本語弁論大会」（サラエボ大学哲学部主催）、「日本語能力試験（JLPT）」（実施機関：サラエボ大学哲学部）など、日本語・日本文化に関するイベントの主催や協力等を通じ、さまざまな形で日本語普及を促進しています。

サラエボ大学哲学部日本語・日本文化教室
（令和元年度草の根文化無償資金協力）

日本語能力試験（JLPT）合格者への認定書授与

日本語弁論大会

書初めワークショップ（新春祭り）

人的交流

日本大使館は、文部科学省や関係省庁、国際交流基金等と連携しながら、日本留学に関する情報の提供、国費留学生の募集。選考、留学後に母国に戻った帰国留学生との関係強化及び活動支援など 、様々な事業を実施しています。

文部科学省国費外国人奨学金留学生

大学生、大学院生を対象にした日本政府の奨学金制度で、年に一度募集・選考が行われます。BHからはこれまで約50人が国費留学生として選ばれ、日本各地の大学・大学院で専門的な教育を受けました。帰国後は日本で得た知見と経験を活かし、日本とBHの架け橋として様々な業界で活躍しています。

国際交流基金 日本研究フェローシップ

日本について調査・研究する学者や研究者等を日本に招へいし、日本で研究・調査等の活動を行う機会を提供しています。

MIRAI プログラム

2019年MIRAIプログラム参加者

2018年に当時の安倍内閣総理大臣が発表した「西バルカン協力イニシアティブ」の一環で、日本と西バルカン諸国との間、及び西バルカン地域の諸民族間の相互理解を促進する目的で実施されているプログラムです。西バルカン地域青年協力機構（RYCO）との協力により、公募で選ばれた優秀な青年を日本へ招へいします。参加者は、東京や京都、広島などを訪れ、平和構築について同世代の日本人学生・研究者と知的交流を行います。

スポーツ交流

日本とBHの間では、両国の友好親善関係を一層深めると同時に、民族融和に向けた取り組みとしてさまざまなスポーツ交流が行われています。

柔 道

柔道BiH&NIPPON杯

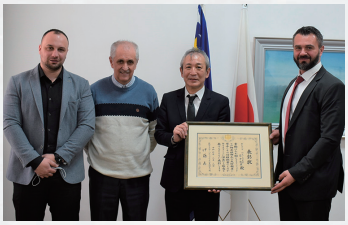
BH柔道連盟主催の柔道トーナメント「柔道BiH&NIPPON杯」が毎年サラエボ市内で開催され、国内外から多くの選手が参加しています。技術のみならず相手を敬う心を身につけることなど、柔道を通じた日本の武道の精神が、BHでは広く受け入れられています。

サッカー

日本からスタディツアーでBHへやってきた子どもたち

元サッカー日本代表主将の宮本恒靖氏の主導で設立されたスポーツアカデミー「マリモスト」は、日本の草の根文化無償で改修されたモスタル市のスポーツセンター「カンタレバッツ」を拠点に、異なる民族の子どもたちへのスポーツ指導を行い、民族融和に向けた活動を続けています。2017年からは日本とBHの子どもたちが互いの国を訪問し合い、スポーツを通じた交流をするスタディツアーも開催しています。

空 手


BH空手連盟への在外公館長表彰の授与

BH国内には約300以上の空手クラブが存在し、3000人以上の競技人口を抱えています。2022年には、日本の伝統的な武道の精神を広く伝えている功績を讃えて、当地の空手連盟に対して在外公館長表彰が贈られました。

ホストタウン事業

ホストタウン事業調印式

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に際し、BHのホストタウンとして鹿児島県伊仙町が登録されました。大会後も日本とBHの相互理解と友好を深めるさまざまな交流事業を継続する予定です。

Embassy of JAPAN